

鉄道遺構研究分科会活動報告～14年目の活動～

和田 浩

1. はじめに

『鉄道遺構研究分科会』へと名称が変更となって2年目、活動は今年で14年目となる。年々、関係機関・団体と連携した活動が広がっており、新たな展開も始まった。

今福線では、「第4回全国未成線・廃線サミット in 高千穂」への参加、「手づくり郷土賞」（てづくりふるさとしょう）の受賞、今福線を活かす連絡協議会（以下、連絡協議会と称す）の事務局担当、旧三江線では、鉄道史研究の第一人者である小野田滋氏との現地調査が実現した。

3次元データの活用として、今福線ではカナツ技建工業㈱の藤原氏とDX研究分科会の三好氏とのコラボレーション、旧三江線では旧三江線全線のメタバース空間の構築に向けた活動・支援が始まった。

本報告は今福線と旧三江線の主な活動について行うものである。

2. 令和5年の活動内容

活動内容の概要は下記のとおりである。

(1) 今福線

- ①第4回全国未成線・廃線サミット in 高千穂への参加
サミットでの発表等はなかったが、本分科会、浜田市、連絡協議会より参加し、参加団体との交流を図った。
- ②「手づくり郷土賞」への応募と受賞
- ③今福線を活かす連絡協議会（正会員）の事務局移行
本分科会が浜田市より事務局を引き継いだ。

(2) 旧三江線

- ①選奨土木遺産認定への調査と資料収集
目の字形ラーメン橋（志谷川橋りょう・日向川橋りょう）、宇都井駅・高架橋の認定に向けて、現地調査や文献等による資料収集と技術の整理を行った。
- ②遺構メタバース構築に向けた全区間軌道3次元データ化
全区間の座標観測と主要構造物踏査を実施した。
- ③小野田滋氏との現地調査
（公財）鉄道総合技術研究所アドバイザーの小野田氏と目の字形ラーメン橋や宇都井駅・高架橋等の遺構について現地調査を行った。
- ④第2可愛川橋りょうの現地見学会
広成建設㈱のもと第2可愛川橋りょう撤去工事の現地見学会を行った。

(3) 関係機関・団体との連携

- ①浜田市、今福線を活かす連絡協議会との連携
- ②土木学会中国支部との連携、松江工業高等専門学校との交流
- ③邑南町・NPO 法人江の川鉄道との連携、川本町観光協会との交流
- ④他の分科会（DX研究分科会）との連携

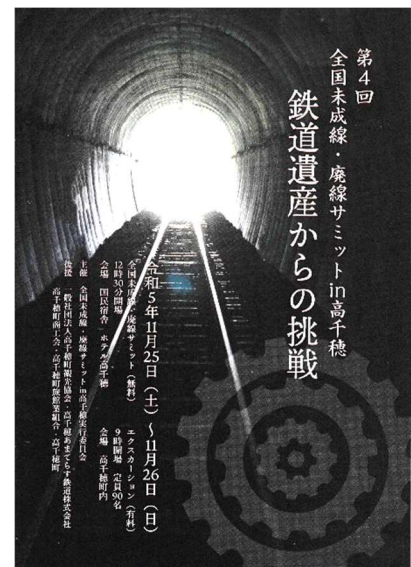


図 2.1.1 サミットプログラム表紙

活動内容を取りまとめたものを表 2.1.1 に示す。

表 2.1.1 分科会活動内容一覧表

年月日	活動内容	備考
6月1日	「今福線」 島根大学（大学院：平川さん）からのヒアリング ・鉄道遺産「未成線」の取り組みとその課題に関する研究（平川さん卒論テーマ） アンケート調査、ヒアリング（活動組織・活動内容・活用経緯・課題と対策）	参加人数 4名 河野、酒井、岸根、和田 正会員他より6名
6月22日	「今福線を活かす連絡協議会 総会」への参加 ・令和4年度活動報告、収支決算、監査報告 ・令和5年度活動計画の予定 ・会則の改正	参加人数 2名 盆子原、和田 正会員他より10名
7月23日	「鉄道遺構研究分科会」初回打合せ（活動内容と日程調整） ・今福線：マップ更新準備、第4回全国サミット情報、これまでの調査研究整理 島根大学研究への協力、連絡協議会事務局移行、遺構3次元データ化 ・旧三江線：選奨土木遺産認定準備、江の川鐵道との連携、 全線軌道3次元データ化、小野田さんとの現地調査 ・その他：岸根さんより遺構資料情報（国立国会図書館デジタルコレクション）	参加人数 11名 村上、河野、酒井、桑野、 佐々木、岸根、藤原、渡辺、 辰巳、行武、和田
7月27日 8月28日 10月19日	「今福線」 3次元点群データ取得の現地計測 藤原さん（カナツ技建工業㈱）と三好さん（㈱共立エンジニア）との連携 「遺構の現地計測と図化」と今後の3次元点群データの活用方法（VR・AR）を目的 ・7/27：3次元点群データ取得箇所選定の事前調査 ・8/28：5連アーチ橋、4連アーチ橋の計測 ・10/19：橋脚群の計測	参加人数 2名 藤原、和田 カナツ技建工業㈱ ㈱共立エンジニア
8月28日	「今福線」「手づくり郷土賞」応募に伴う国交省（浜国）からのヒアリング ・活動背景、活動概要、行政の役割、PR項目（社会資本の整備・維持管理・利活用 や地域活動の創意工夫、地域活動取組の独創性、地域づくりの成果・波及効果、 今後活動の継続性・発展性、他への先進性・先導性他）	参加人数 1名 和田 正会員他より6名
9月27日 ～ 11月9日	「旧三江線」遺構メタバース構築に向けた全区間軌道3次元データ化 ・全区間の座標観測と主要構造物踏査	参加人数 3名 酒井、岸根、辰巳 江の川鐵道より5名
11月3日 11月4日	「旧三江線」小野田さんとの現地調査への準備と遺構調査・計測 ・11/3：志谷川橋りょう・日向川橋りょう環境整備と調査計測（シュミットハンマー） ・11/4：トンネル点検車組立、第2口羽トンネル点検	参加人数 7名 樋口先生、河野、酒井、 佐々木、岸根、行武、辰巳、 和田 川本町観光協会他より3名
11月6日	「今福線」運輸総合研究所（武藤さん）からのヒアリング ・広浜鉄道遺構の観光資源化の取り組みについてのヒアリング 観光資源化きっかけ、遺構の保存管理と財源、国・県との関係や役割 誘客方法と効果、現状の問題点と今後の取り組み	参加人数 1名 和田 正会員他より5名
11月13日	「今福線」RCCテレビ「元就。二百万一心」ロケへの出演 ・「幻の鉄道遺産 広浜鉄道今福線！浜田市」と題してテレビ撮影への出演 元広島カープ監督 佐々岡さんを家臣とした地域の魅力発信番組 橋脚群、4連アーチ橋（選奨土木遺産銘板）、新旧交差点の紹介	参加人数 1名 和田 正会員より3名
11月18日 11月19日	「旧三江線」小野田さんとの現地調査 ・11/18：三次市内高架橋、船佐拱橋、出羽川橋梁、宇都井駅・高架橋他 ・11/19：第2口羽トンネル（小野田さんより点検時の留意点や着目点の助言 を受ける）、第1・2江川橋りょう、志谷川橋りょう、日向川橋りょう他	参加人数 8名 小野田、やまもと、原、 樋口先生、酒井、永田、 佐々木、岸根、渡辺、辰巳、 行武、和田
11月25日 11月26日	「第4回全国未成線・廃線サミットin高千穂」へ参加 ”鉄道遺産からの挑戦”をテーマとして宮崎県高千穂町にて開催 ・11/25：サミット（活動事例発表（島根大学_平川さん研究成果発表他）、 トークイベント（ゲスト六角精児氏）、大会引継式、交流会） ・11/26：エクスカーション（高千穂あまてらす鉄道、トシの駅、高千穂峡）	参加人数 4名 佐々木、岸根、渡辺、和田 正会員他より14名
12月12日 12月18日	「旧三江線」現地見学 ・第2可愛川橋りょう 撤去工事の現地見学会	参加人数 1名 酒井 江の川鐵道より1名
12月23日	「今福線」「手づくり郷土賞」（国交省地域振興表彰）受賞記念発表会へ出席 ・社会資本と関わりを持つ地域づくりの優れた取り組みを表彰 令和5年度で38回目となる国土交通大臣表彰	参加人数 1名 和田 正会員他より2名

※参加人数は島根県技術士会からの人数を示す

3. 分科会活動

3.1 第4回全国未成線・廃線サミット in 高千穂への参加

第3回全国未成線サミットの今福線（浜田市）から引き継いだ、高千穂町において、“鉄道遺産からの挑戦”をテーマとして第4回サミットが開催された。

高千穂町には熊本県高森町に繋がる予定であった未成線と、平成17年の台風災害により廃線となった旧TR高千穂鉄道施設があることより、未成線に廃線を加え「未成線・廃線サミット」としての名称となった。

開催日：令和5年11月25日(土)・・・サミット
26日(日)・・・エクスカージョン

開催場所：宮崎県西臼杵郡高千穂町
(高千穂あまてらす鉄道)

参加者：佐々木、岸根、渡辺、和田(以上、本分科会)

連絡協議会や浜田市からの参加も含め、合計17名

1日目：活動事例発表やトークイベント(13:00～16:30)、交流会(18:00～20:00)

【活動事例発表】

島根大学大学院の平川氏による“鉄道遺産『未成線』における活用実態とその課題”として、全国の未成線(88路線:国鉄・私鉄)で遺構が現存し(63路線)活用されている16路線(図3.1.1)を中心に、建設経緯・中止理由等の歴史的背景や活用状況、活動組織の実態と課題について、実施したアンケートやヒアリングの結果とその考察について、発表があった。

路線の計画年は11路線(今福線も含む)が1922年(大正11年)と最も多く、未成線として戦前・戦後と2度にわたり着工されたのは、五新線と今福線の2路線であった。計画理由は、住民要望と物資輸送が多く、工事の中止理由は、戦争や資金・資材不足と採算面があったようである。旧線・新線と呼ばれているのは、全国でも今福線だけと思われ、新旧線が交差する箇所は、日本で唯一なのかもしれない。活用方法や活動組織の実態と課題を表(3.1.1～3.1.3)に示す。

活動事例発表	
●研究発表	島根大学大学院 自然科学研究科 環境システム科学専攻 建築デザイン学コース 平川 真衣 様
●山口県岩国市(岩日北線)	錦川観光協会 会長 中村 信利 様
●熊本県高森町(高千穂線)	高森町役場 生活環境課 主査 山田 佳慶 様
●宮崎県日之影町(高千穂線)	日之影町役場 地域振興課 課長 工藤 富士 様
●宮崎県高千穂町(高千穂線)	高千穂あまてらす鉄道株式会社 専務取締役 齊藤 拓由 様
トークイベント	
テーマ:「鉄道遺産からの挑戦」 登壇者:俳優・タレント 六角 精児 様 フリーアナウンサー 田代 剛 様	
大会引継式	
●高千穂町長から第5回開催地 山口県岩国市 副市長 杉岡 匡 様へ	

図3.1.1 サミットプログラム



図3.1.2 16路線(平川氏プレゼンテーションより)

表3.1.1 遺構の種類と活用方法

種類	活用方法	備考
路盤	道路へ転用、トラックや遊歩道	油須原線・岩日北線など
トンネル	貯蔵庫や栽培施設(焼酎やワンセラー)	高千穂線・佐久間線など

表3.1.2 活用に関する類型化

活用法	活用方法	備考
単体活用法	文化財・貯蔵庫	高千穂線など
線状活用法	トロッコ・遊歩道	油須原線など
路線全体活用法	ツアー・ウォーキングコース	五新線・今福線など

表3.1.3 活動組織の実態と課題

項目	回答とその多い順 () 内は回答数
活動形態	自治体(9)、民間企業(4)、市民団体(3)
団体設立経緯	地域活性化(3)、保存次世代継承・行政から働きかけ(2)
所有者	自治体(7)、個人・民間企業(2)、不明(1)
活用きっかけ	地域活性化、保存次世代継承・行政から働きかけ、観光地化
活用理由	地域活性化、観光地化、環境・特性利用、遺構継承・文化財、未成線関心
活用で行ったこと	遺構補修修復、周辺整備・草刈り、意見交換会・協議会、行政支援
費用	自治体予算(8)、私費(5)、不明(2)
課題	老朽化、収益性向上・人員不足・安全管理、維持管理費用、運用資金不足
解決策	広告活動、補助金活用、遺構環境整備、大学・地域との連携、人員確保

今後の課題としては、下記の①～③が挙げられ、各活動団体の共通事項であり今福線も同じである。平川氏の発表で、改めて他の団体との情報交換や連携を深めていくことの大切さが再認識できた。

- ①未成線としての認知度向上
- ②周辺地域の施設との連携
- ③自治体・周辺住民や地域・民間企業の協力

【トークイベント】

“鉄道遺産からの挑戦”をテーマに、田代剛氏（フリーアナウンサー）を司会として、タレントの六角精児氏、高千穂町長の甲斐町長により、トークイベントが開催された。トーク時はカメラやスマートフォンによる撮影や録画・録音は禁止だったが、イベント後は撮影が許可された。右の写真は左から、平川氏、甲斐高千穂町長、六角氏、田代氏、齋藤氏（高千穂あまてらす鉄道）。



写真 3.1.1 トークイベント後の撮影

- 六角氏より、未成線や廃線を利用する上で、以下の留意点や提案等があった。
- ・地域の人々が楽しむ、利用していることが大切であり、地域の理解が必要!
- ・安全な路線として、元線路を利用した BRT での活用を推奨
- ・駅舎（時刻表の残置）を人々が集まる場所やコミュニティーの場として利用、また、物産販売や居酒屋として利用
- ・御朱印帳ならぬ「鉄印帳」を作成・販売し、全国の廃線・未成線をスタンプラリーで回る（つなぐ）
- ・サミットのつながりを大切に、第三セクター等によりネットでつながり、横の連携、絆を育む

- ・未成線は歴史としての検証、鉄道公園化活動や文化財としての保存
- ・その土地を知るツールとして特化

例えばシニア層をターゲットにしたツアーや情報発信

【第5回開催地への引継ぎ】

次の開催地は、山口県岩国市の「岩日北線」(錦川鉄道)である。

2日目：エクスカージョン(9:00~12:00)、下記の3箇所で実施

①高千穂あまてらす鉄道

あまてらす鉄道乗車(トロッコと旧列車)、施設内見学等



写真 3.1.2 高千穂駅



写真 3.1.3 トロッコ列車



写真 3.1.4 高千穂橋からの眺め

※写真では、高千穂橋の高さ(105m)が伝わらないですね!

是非、現地へ行って乗ってください!

②トンネルの駅

葛原トンネル施設内見学とトンネルの駅の駅長である熊埜御堂(くまのみどう)氏より、施設概要について説明をしていただく。

廃線となった葛原トンネルを貯蔵庫として焼酎を樽で醸造している。

トンネル延長：1,115m、トンネル断面型式：特1号型(交流電化用)

気温：年中17℃、湿度：70%、貯蔵樽数：1300本



写真 3.1.5 葛原トンネル坑口



写真 3.1.6 トンネル銘板



写真 3.1.7 トンネル内醸造状況

③高千穂峡

五ヶ瀬川にかかる峡谷で、国の名勝、天然記念物に指定されている高千穂峡の遊歩道を中心に見学。



写真 3.1.8 柱状節理

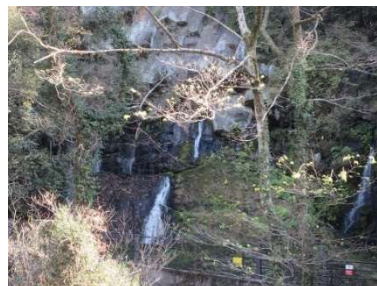


写真 3.1.9 12万年前と9万年前の境目より湧水



写真 3.1.10 高千穂峡の渓谷

阿蘇カルデラは、4回の大噴火（約27万年前、約14万年前、約12万年前、約9万年前）の火山活動によりつくられた。約12万年前と約9万年前の2回に噴出した高温の軽石流（火砕流の一種）により生じた柱状節理と渓谷の景観は圧巻であった。

※エキスカッションで六角氏と直接、お話することができた！

高千穂あまてらす鉄道で、六角氏の姿を発見した私は思わず駆け寄り、未成線である今福線の浜田から参加したこと、今福線の活動で技術者として調査や研究をしていることをお伝えし、名刺（鉄道遺構研究分科会と連絡協議会の2種類）を渡すことができた。

六角氏は浜田へは来られたことがあったが（今福線はご存知）、今福線は見たことがないとのことだったので、浜田へ来られた際には（ないかもですが）、「今福線をご案内しますので、お声掛けしていただければ幸いです」とお伝えすることができた。

六角氏には、笑顔と優しい口調で対応していただき、感謝です！

3.2 「手づくり郷土賞」への応募と受賞（今福線）

(1) 「手づくり郷土賞」応募

「手づくり郷土賞」とは、1986年（昭和61年）度に創設された国土交通大臣表彰で、地域の魅力や個性を創出し、良質な社会資本及びそれらと関わりをもつ優れた地域活動を広く募集・発掘し、これらを全国に広く紹介することにより、個性あふれ活力ある郷土づくりに資することを目的として設定された賞で、今年度で38回目となる。地域づくりなどに取り組む活動団体が、単体もしくは地方公共団体との共同で応募することにより、選出される。一般部門と大賞部門があり、「手づくり郷土賞（一般部門）」受賞後、なお一層の活動の充実が認められるなどの場合に大賞部門として選定される。

6月に浜田市より、「手づくり郷土賞（一般部門）」へ応募したいとの話があった。応募

案件名は“「幻の広浜鉄道今福線」を活かした地域活性化”で活動団体名は「今福線を活かす連絡協議会」である。

応募にあたっては、連絡協議会や本分科会の活動のきっかけや経緯、活動内容、課題、PR等について整理した資料や写真を浜田市が取りまとめ提出を行うものである。

本賞は、令和3年にNPO法人江の川鐵道が「三江線鉄道公園～鉄道遺産を活かした「まちづくり」・「インフラツーリズム」の取組～」で受賞されている。

「幻の広浜鉄道今福線」を活かした地域活性化



	
今福線ウォーキング開会式	全国未成線サミットでの現地エキスカッション
<活動内容> 戦争等の理由により未成線となった幻の鉄道遺産、今福線。平成20年に今福線コンクリートアーチ橋が推奨土木遺産認定されたことを契機に、この鉄道遺産を観光交流や地域活性化に活かすべく「今福線を活かす連絡協議会」を平成28年に結成。協議会は地元団体と技術士会から成り会員数31名。鉄道遺構の維持管理や調査・研究をしながらツアー受け入れや学生へのふるさと学習を実施。令和5年2月のウォーキングイベントには、参加者183名のうち県外から17名の参加もあり、インフラツーリズムとして好評。	
<地域活動団体> 今福線を活かす連絡協議会	
<対象となる社会資本> 広浜鉄道今福線遺構 ※管理者：浜田市	

図 3.2.1 国土交通省プレスリリースより

(2) 「手づくり郷土賞」受賞

活動団体がある地方整備局へ提出後、管轄内事務所（浜田河川国道事務所）からのヒアリングが8月28日に行われた。ヒアリングでは活動背景、活動概要、行政の役割の他、PR項目で記載した地域活動をする上での創意・工夫・取組の独創性や、地域づくりの成果・波及効果、今後活動の継続性・発展性、他への先進性・先導性等について聞き取りがあった。

11月下旬に、「手づくり郷土賞」に選定された知らせがあった。選定理由は定かではないが、個人的にはヒアリング時にもアピールした、活動が行政と地域団体だけではなく、土木技術の専門家である技術士（本分科会）や大学が連携して活動しており、技術者が遺構の歴史や技術的な検証を整理し、その価値を明確にしていることが、他団体に比べ特徴的であり受賞となった一つの要因ではないかと思うところである。

12月23日、東京国際交流館プラザ平成にて受賞記念発表会と交流会が開催され、発表会では活動についてプレゼンテーション（6枚・3分）を行う予定である。

参加される皆さんに今福線を知ってもらい、交流会では新たなネットワークをつなぐことができると思う。



図 3.2.2 プレゼンテーション（抜粋）

3.3 小野田滋氏との現地調査（旧三江線）

（公財）鉄道総合技術研究所アドバイザーで、鉄道史研究の第一人者、鉄道土木スペシャリストとして「ブラタモリ」への出演、また、「橋とトンネル—鉄道探求読本—」や我々がトンネル断面の型式やコンクリートアーチ橋の標準図を調べる際の参考図書である「鉄道構造物探見」の著者でもある小野田氏と一緒に旧三江線の現地調査を行った。また、「三江線鉄道遺構図鑑」の編集・執筆をされたライターをやまもとのりこ氏や、目の字形ラーメン橋が存する川本町観光協会の原氏も同行し現地調査を行った。現地では、小野田氏からの資料（「第一江川橋梁工事記録-日本鉄道建設公団」・「続・国鉄トラス橋総覧（2）」）や岸根氏資料（区間別による建設年と主要構造物一覧表）を参考に、遺構の調査や確認をした。

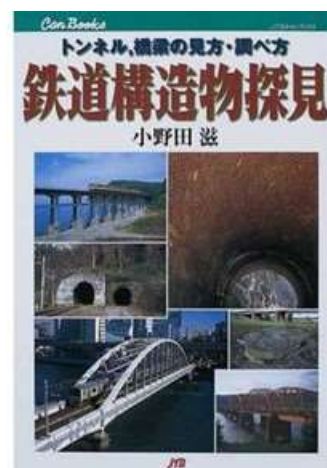


図 3.3.1 小野田滋氏著書

調査では、構造形式・形状・施工方法などについて話が盛り上がり、予定時間を超過することがしばしばであった。

第二江川橋りょうは、支間長 140m の曲弦ワーレン下路トラス橋で、建設当時（昭和 50 年）単純トラス橋としては、日本一の規模であった。小野田氏からの資料（「第一江川橋梁工事記録」）には、橋梁形式の決定経緯やケーブルエレクション工法による架設工法の選定

や架設計算等の記載があった。中でも下部構造については、上部工形式の決定により両端の橋脚の安定性に問題があったため、橋台と橋脚を一体化した三面張りのラーメン構造(下図の○)が採用されており、道路構造ではなかなか見ない構造であり、技術者の創意工夫をうかがい知ることができる資料であった。

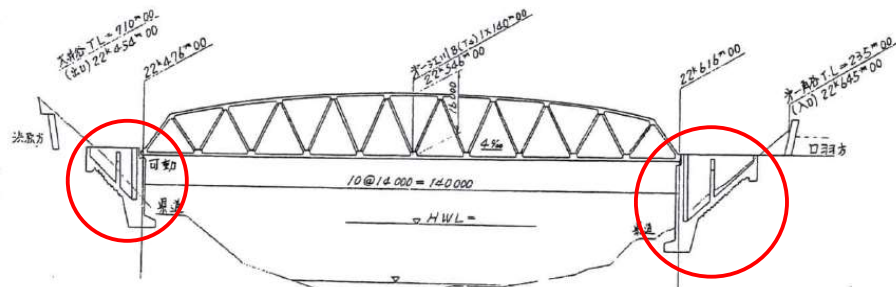


図 3.3.2 第二江川橋りょう側面図-「第一江川橋梁工事記録」より

また、小野田氏からはトンネル点検時における着目点や留意事項について、特に坑口付近の変状箇所と周辺地形との関係性について助言をいただいた。今後の点検に活かしていきたいと思う。

夜の部である懇親会では、NPO 法人江の川鉄道より日高理事長、森田氏、長谷川氏が参加され、三江線の建設当時のエピソード、列車が運行していた頃のお話や今後の遺構を利活用するお話などで大いに盛り上がった。

開催日：令和5年11月18日(土)、19日(日)

開催場所：旧三江線の遺構(三次市内～宇都井駅・高架橋～鹿賀陸閘門)

参加者：酒井、永田、佐々木、岸根、渡辺、辰巳、行武、和田(以上、本分科会)

小野田氏、樋口先生(以上、土木学会)、やまもとのりこ氏(ライター)、原氏(川本町観光協会)、(合計12名)



写真 3.3.1 船佐拱橋



写真 3.3.2 出羽川橋りょう



写真 3.3.3 トンネル点検車



写真 3.3.4 第二江川橋りょう



写真 3.3.5 志谷川橋りょう



写真 3.3.6 参加メンバー

内容：現地調査と遺構の構造や施工の解説(以下の遺構を調査)
十日市架道橋(三次市内)、第一可・第二愛川橋りょう、船佐拱橋、
出羽川橋りょう、宇都井駅・高架橋、第2口羽トンネル、
第1江川橋りょう、第2江川橋りょう、都賀大橋高架橋、

目の字ラーメン橋（志谷川橋りょう・日向川橋りょう）、鹿賀陸閘門

4. 今後の活動

過去の研究報告文に記載している内容と重複するが、これまでの活動を継続することを基本とし、主な活動を以下に示す。

4.1 今福線の活動

(1) 技術資料の収集・整理と図鑑の制作

これまでの調査・研究した資料の整理と、下長屋トンネルの“謎（内空断面の相違や工事発注時2本が1本で完工）”の解明やその他の技術資料（例えば盛土勾配の決定方法）について、文献（国立国会図書館デジタルコレクション等）調査や小野田氏からの情報・資料等（依頼済み）を収集し整理する。

資料の成果の一つとして、旧三江線で制作した図鑑（図4.1.1）のように、遺構の構造形式や技術的な特徴等に着目した冊子の制作を考えている。

(2) マップ更新の準備（写真やコメント）

遺構周辺や沿線の風景は、連絡協議会の皆さんによる環境整備等（草刈りや桜の植樹等）で、少しずつ変化している（良い意味で）。更新は、5年を目途（次回、令和8年）としており、四季折々の変化も含めて注視していきたいと思う。

4.2 旧三江線の活動

(1) 選奨土木遺産認定への準備とその他遺構の資料収集と技術検証

目の字形ラーメン橋（志谷川橋りょう・日向川橋りょう）、宇都井駅・高架橋の選奨土木遺産の認定に向けて、遺構としての価値や技術の検証・特徴を整理する。

旧三江線には遺構が数多く残っており、工事期間は大正15年～昭和50年までと長期間におよんでいる。そのため、構造形式や造りは建設当時の基準や技術を反映したものとなっており、三江線鉄道遺構図鑑内の遺構以外にも魅力的な遺構がたくさんある。選奨土木遺産候補以外の遺構についても、国立国会図書館デジタルコレクションの文献等を利用して資料収集や整理ができればと思う。

4.3 関係機関・団体との連携

今福線と旧三江線とも関係機関・団体と連携した活動や情報交換等、横のつながりを深めネットワークを拡大することが大切である。

(1) 浜田市、今福線を活かす連絡協議会

連絡協議会の事務局を浜田市から引き継ぐことに伴い、下記を予定している。

- ①連絡協議会のホームページの開設と運営
- ②活動資金の確保（現在は市やまちづくりからの助成金）
- ③オリジナルグッズ（Tシャツ・手ぬぐい等）の製作と販売
- ④トンネル等の遺構の利活用（貯蔵庫等）

サミットで六角氏の提案の中に、「鉄印帳」の作成・販売があったが、実は、「レールマウンテンバイク事務局-旧神岡鉄道」の田口

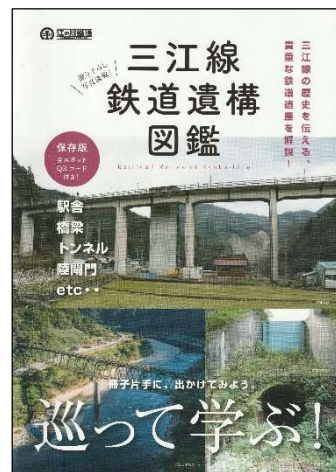


図4.1.1 三江線鉄道遺構図鑑

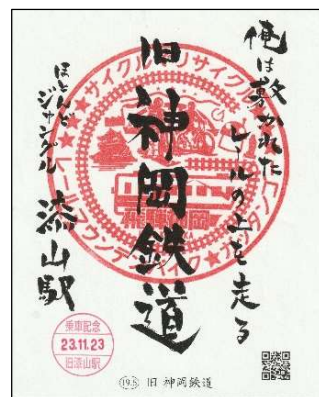


図4.3.1 廃線印の例
田口氏より

由加子氏が「廃線印」(図 4.3.1)を作成し販売されている。田口氏は、第1回、第2回サミットにも参加されており、今回も、精力的に参加者と交流されていた。「鉄印」は旅行読売で商標登録済みだが、「廃線印(未成線印)」ならば商売 OK とのことなので、是非、作成しスタンプラリーが実現できればと思う。また、今福線単独での活動や発信ではなく、周辺の観光施設(例えば温泉(温泉総選挙 2023 結果発表で、うる肌部門第1位「美又温泉」、リフレッシュ部門第2位「旭温泉」)、石見神楽、お魚、海等)と連携したり、旧三江線や錦川鉄道等との横のつながりを図っていくことが大切となる。

(2) 土木学会(岡山大学樋口先生)や松江工業高等専門学校(大屋先生)

遺構の選奨土木遺産認定や歴史・技術の検証、公園施設(トンネル・橋梁・駅)の点検・維持管理方法(3次元化)等について、助言や連携を引き続きお願いしたい。

(3) NPO 法人江の川鐵道、川本町観光協会、邑南町

「旧 JR 三江線メタバース構想推進事業(島根県環境生活部 NPO 活動推進室支援事業)」の採択に伴う、江津駅から三次駅までの全線 108km の沿線メタバース空間構築の支援や鉄道公園施設(トンネル・高架・駅ホーム)の点検指導を引き続き行う。

(4) 他の分科会との連携

今福線遺構(アーチ橋・橋脚群)の3次元点群データをカナツ技建工業(株)の藤原氏とDX研究分科会の三好氏に取得、処理をしていただいた。今後の活用方法(データ保存や見せ方等)について検討・調整を図り、引き続き、連携した活動をお願いしたい。

5. おわりに

今年度は、今福線及び旧三江線とも関係機関・団体と連携した多様な活動に取り組んだ1年であった。来年度以降も新たな取り組みや様々な活動が予想される。

個人的には、本分科会や連絡協議会での活動に専念できる環境となり、ライフワークとして取り組んでいきたいと考えている。

今後も、地域や関係機関・団体と連携し、次世代に遺構と活動を継承するためにも、我々の活動状況や情報を発信し、楽しく活動を継続することで地域貢献ができればと思う。

謝 辞

樋口先生のお力添えにより土木学会中国支部の調査研究活動助成制度の活用と小野田滋氏との現地調査が実現しました。また、小野田氏には貴重な資料や助言をいただきました。ここに深く謝意を表します。

参考文献

- ・上栗利雄(下関支社 三江鉄道建設所):三江線第一江川橋りょうの施工について
第10回技術研究会記録-日本鉄道建設公団 pp.173-192, 1974.10
- ・西村俊夫:続・国鉄トラス橋総覧(2)
足利工業大学研究集録 第17号 pp.103, 1991.3
- ・小野田滋:鉄道構造物探見 トンネル、橋梁の見方・調べ方、2003
- ・NPO 法人江の川鐵道:三江線鉄道遺構図鑑、2022

以上